

令和5年度小郡市I C T教育推進について

4月19日に本年度1回目の市I C T教育推進委員会を開催しました。

令和5年度の小郡市重点事項である「I C T教育と学力向上の一体的充実を目指した授業改善」を推進するため、昨年度まで別々に開催していた「市I C T教育推進委員会」と「市学力向上推進委員会」を今回より適宜、合同開催することとしました。

I C T活用が真に子どもたちの「未来を生き抜く学力」の育成につながるようにすることが目的です。

第1回目は、味坂小学校 伊藤成海先生による「I C T活用を通じた国語科学習の実践発表」、「主体的・対話的で深い学び」の日常化を図ることについての市教委説明、そして、中学校区ごとの協議という3つの内容で会を持ちました。I C T担当と学力担当の双方の立場からの課題を踏まえた活発な意見交流がなされ、大変有意義であったと感じています。

これからの各学校での取組推進をよろしくお願い致します。

教育長 秋永

〔実践発表〕「言葉による見方・考え方を働かせ、豊かな読みを獲得した子供を育てる国語科学習指導～I C T機器を活用する活動を通して～」
小郡市立味坂小学校 教諭 伊藤 成海 先生

〔実践発表の概要〕

説明的文章、文学的文章においてI C Tを活用することで、言葉による見方・考え方を働かせ、豊かな読みを獲得した子供を育てることができるのではないか、という仮説を立て、検証授業を行いました。

その結果、考えの形成や交流にタブレットを活用することで、情報の整理、比較、分類、考えの形成、表現ができ、「国語が好き」と答えた子供は75%⇒92%に増えたことが成果として挙げられます。

〔導入〕興味・関心を高める



問題の提示・前時の振り返り

〔展開〕考えを作る



シンキング・ツールで整理・分析

〔終末〕考えを深める



考えの共有・比較

【市教委説明】「I C Tを効果的に活用した『主体的・対話的で深い学び』の日常化のための取組」

子どもたちの「未来を生き抜く学力」を育成するために、これまでの教師主体の授業から、主語を「子ども」にした、「**子どもが自ら学ぶ授業**」へ転換することが求められています。

小郡市の課題である「児童生徒・保護者は積極的なI C T活用を望んでいるが、十分な活用がなされていない」ことを踏まえ、全教室に浸透させるために学力向上プランを活用して、日常的・組織的に取り組むための方策について、参加者全員で共通理解しました。

〔「主体的・対話的で深い学び」の日常化のために、市全体で取り組んでいただきたいこと〕

◇「効果的な活用」についての共通理解

・子ども主体で…いつでも、どこでも、使いたいときに、自己決定・自己選択、自己調整ができるように

・対話交流場面で…多様な意見を共有しつつ、合意形成を図る活動を

・学びの深まりへ…情報の比較・検討、データ処理・考察、情報発信などの活動を

◇小郡市I C T教育推進ロードマップを基に「I C T教育と学力向上の一体的充実」に向けた目的・取組指標を共通理解し、学力向上プランにI C T活用の視点を取り入れる。

◇授業チェックリスト（教師用・児童生徒用）を活用して、同じ項目で教師も子どもも評価し、評価のずれから授業改善の課題を考え、次時の授業改善へ生かす。

〔グループ協議の要旨〕ICTの効果的活用を通じた『主体的・対話的で深い学び』の実現を全教室へ浸透・日常化するための学校の戦略・方略について協議しました。

宝城中 校区

- ・ICT支援員に機能の紹介や、職員研修を依頼し、小・中学校間で共有する。
- ・年間指導計画を見直したり、研究授業でのICT活用を位置付けたりする。
- ・各クラスの活用場面を紹介する。
- ・授業研究にICT活用を位置付ける。

大原中 校区

- ・教員間格差を生まないように、まず朝の活動でのタイピング等を位置付け、タブレットに触れる機会を増やす。
- ・校内研修やミニ研修を通して、ICTを活用する有用性を感じてもらう。
- ・タブレットに触れる機会を増やすことで、ICT活用の「質」を変える。

立石中 校区

- ・基本に立ち返り、ICTを活用する必然性を共通理解する。
(高校でも一人1台端末を活用、中学校での活用差は高校での学習に影響する等)
- ・ミニ研修を実施し、ICTが苦手な先生が聞きやすい雰囲気を作る。
- ・「活用してみたら意外と便利だ」という体験を重ねて、学校間・学級間の差を埋める。

小郡中 校区

- ・ロイロ・ノートの共有の仕方を「楽しそう」だけでなく授業レベルまで落とし込む。
- ・どの教科においても同一のフォーマットでまとめや振り返り、評価を行う。
- ・小・中合同のICT研修を実施し、小・中学校での共通する取組を見出す。
- ・ICT支援員にも授業を参観してもらい、ICTの活用場面について提案してもらう。

三国中 校区

- ・教師のスキル向上のためのミニ研修を継続させる。
- ・三国中校区「9年間のICT育成プラン」(発達段階における到達目標)を活用し、小・中学校3校において周知・浸透させる。
- ・効果的な活用について情報共有できるような職員研修を定期的に行う。

各学校の今後の戦略

- ・教務として、週案で先生方の取組を把握し、広めていきたい。(味坂小)
- ・小・中合同でICT教育の研修を実施し、先生たちの意欲を高めていく。(小郡小)
- ・職員室の後ろにホワイトボードを設置し、授業内での活用を掲示する。(立石小)
- ・15分程度のミニ研修を実施し、実践例など職員間で共有・浸透する。(のぞみが丘小)
- ・毎回の授業のまとめ(自己評価、感想等)をタブレットのスクリーンショットなどで記録⇒ロイロノートで紐づけ⇒記録を活用して、単元の終末に自己の考えの変遷を視覚的に振り返る。(宝城中)
- ・全教科共通の視点や方法で振り返りを毎時間行い、生徒の主体的な成長等を促す。(大原中)
- ・各学年から1人以上がICT推進委員会に参加するような校内体制をと整える。(立石中)
- ・全教科共通の振り返りシートを作成し、授業でそのシートを使って振り返りをする。(小郡中)
- ・毎回の板書を撮っておき、必要なときに振り返りができるようにしておく。(三国中)
- ・タブレットをどの授業も机に出すように習慣づけ、必要な時にすぐに活用できる。(三国中)

三国小学校 校長 石井 裕一
(ICT教育推進委員会 委員長)

ICT機器を使うことがない職場は考えられない社会になっています。そのような中を生きる子どもたちには、活用のスキルやモラルが学力とともに必要です。学習で繰り返し活用することでそれらを育成し、子どもたちの未来を保障しましょう。

小郡小学校 校長 福永 隆二
(学力向上推進委員会 委員長)

学力を向上させるためには、日々の授業の積み重ねが大切です。ICTのよさ(繰り返せる、記録に残せていつでも振り返られる等)を生かすことは、子どもの意欲を高め、有効だと考えます。授業をよりよくすることが、学校をよりよくすることにつながります。